

---

## 全市町村が一丸となって、会員増強を確かなものに

～市町村老人クラブ連合会会長・事務担当者会議を開催しました～

---

4月28日（月）県立総合福祉センターにおいて、本年度の市町村老人クラブ連合会事務担当者会議を開催しました。本年度は4月1日にスタートした「老人クラブ会員増強運動」の意思統一を図るため、担当者とあわせて、各市町村老連の会長にも出席をお願いしました（24市町村53名出席）。



会議は初めに、県長寿保険課から認知症対策における協力依頼及び本年度の徳島県における「高齢者いきいきプラン」を柱とした高齢者の福祉施策の行政説明があり、その後県老連から「老人クラブ」について、その目的や組織、活動の全体像、補助金の根拠となっている老人福祉法の位置付けなどを説明、また、老人クラブの重要性については、高齢者の生活支援や地域包括ケアシステムへの貢献にも大きな期待が寄せられていることを示し、共通の理解として認識していただきたいとお願いしました。

続いて、本年度の事業計画や予算についての説明に移り、特に本年度取り組み開始30周年を迎える友愛訪問活動については、ひとり暮らし高齢者の増加に伴い、更なる充実強化を図りたいと説明、格段の協力をお願いしました。

今回の会議の主題でもあり、4月1日からスタートした「老人クラブ会員増強運動」について、その概要を説明、特に単位クラブに最も近い存在である市町村老連の役割として、単位クラブの休会・解散を未然に防ぐため、単位クラブの活動を支援する体制づくり（専門部の設置や担当者の配置）、老人クラブ活動の広報、啓発を積極的に行うなど、その機能を強化して欲しいと説明しました。

参加者からは、体調不良を理由に退会する方や亡くなる方も多く、なかなか難しい問題であるとの意見が出されましたが、一方で、役員のやる気次第で増やすことができるといった力強い意見もありました。